

造園工事の 樹上安全作業について



(一社)日本造園建設業協会
事業課長

清水 謙治

造園工事に伴う作業のうち、特に高木剪定等に伴う樹上での高所作業では、墜落災害が多発しており、重篤な労働災害に直結しています。

樹木に登って作業せざるを得ない現場が多くある中で、「墜落を防止するための統一的な作業方法が普及していない」「墜落による労働災害の撲滅を目指した作業方法の普及啓発が必要である」との認識から、(一社)日本造園建設業協会(日造協)は2025年3月に、(一社)日本造園組合連合会(造園連)と建設業労働災害防止協会(建災防)とともに、『造園工事の樹上安全作業マニュアル』を発行しました。

このマニュアルをもとに、樹上作業で求められる「墜落自体を防ぐ」「身体・樹木に衝撃荷重を掛けない」ことを重視した“造園ワークポジショニング作業”について、指導できる人材の育成や普及に努めています。

マニュアルを作成した経緯と“造園ワークポジショニング作業”について紹介します。

◆マニュアルを作成した経緯

2022年の改正労働安全衛生法・同規則により、高さ2m以上の箇所で、作業床の設置が困難な場合、墜落制止用器具を使用することが原則となりました。改正前までは、胴ベルト型の安全帯を使用し2丁掛けで剪定作業を行うことを推奨してきました。

造園業界としても、法令順守するために墜落制止用器具の使用(フルハーネス型の墜落制止用器具にランヤード2本とショックアブソーバ付きのランヤードの計3本を使用する方法)を推奨してきましたが、会員や資格者(街路樹剪定士)などから、樹上作業時の安全性や作業性に疑問視する声が上がりました。

墜落制止用器具は、作業者の墜落を制止する(フォールアレスト)ために、ロープやフックを掛ける上方の支持物が落下の衝撃荷重に耐えられることが前提です。一般的に建築現場などでは、構造物や鉄骨などに堅固な取付設備を設置することは可能です。

しかし、樹木は樹種や生育状況によって1本ずつ個体が異なり、掛ける幹や太枝の強度も数値で示すことが困難です。健全に見える樹木でも、腐朽が進んでいる可能性があります。また、不安定な場所で、のこぎりや剪定ばさみ、チェーンソーなど鋭利な刃物を扱うため、自身の怪我やロープを破損する危険性もあり、それを起因とする労働災害も頻発しています。

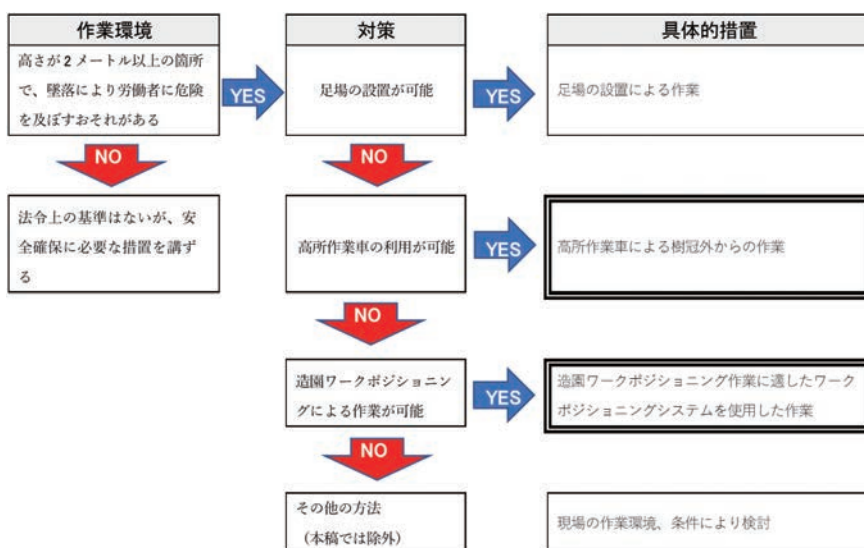
このような事態を踏まえて、日造協と造園連は、労働基準監督署へも相談し、造園工事における樹上での安全な作業について整理したうえで、建災防の編集協力も得ながら、「造園工事の樹上安全作業マニュアル」を発行しました。

◆造園ワークポジショニング作業を選択するフロー

マニュアルには、作業環境と目的に応じた作業フローを記載しています。

作業環境の高さが2m以上の箇所で、墜落による労働者に危険を及ぼす恐れがあり、足場も設置が不可能で、高所作業車も利用できない場合において、“造園ワークポジショニング作業”を選択します。

なお、現場の作業環境や条件(巨木や枯損木など)によっては、ツリークライミングやロープ高所作業などを行うこともあります。

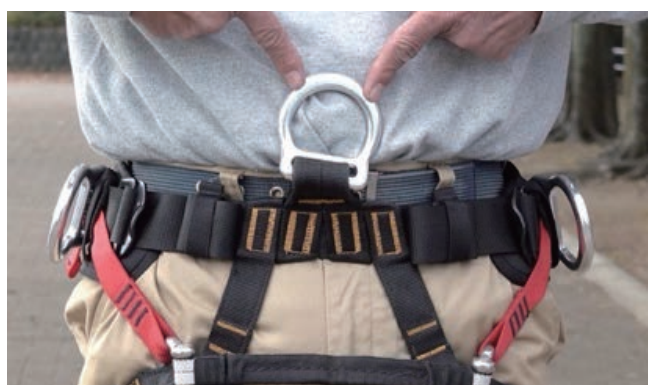


◆造園ワークポジショニング作業の方法

樹上での造園ワークポジショニング作業に適したアタッチメントポイントを備えたハーネス（シットハーネス・フルハーネスどちらでも可）と、適切な長さに調節できる伸縮調節器を備えたロープ（ワークポジショニングロープと移動用ロープ）を使用し、作業箇所の上部にある幹や枝に回しがけし安定した姿勢を確保し作業を行います。

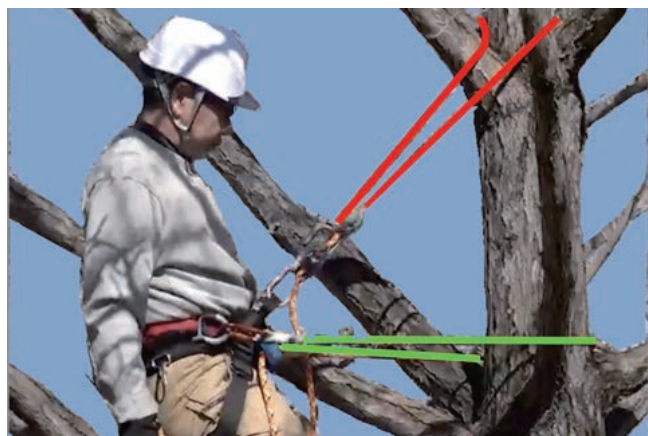


側部2か所のアタッチメントポイント



腹部アタッチメントポイント

剪定作業中は、ワークポジショニングロープと移動用ロープを使用し、伸縮調節器により常に張力をかけたロープをU字吊り状態で使用します。



2本のロープによる安定した作業姿勢

昇降や横への移動時にロープの掛け替える際も、最低1本以上のロープに張力をかけた状態を維持することで墜落を防止します。（緑がワークポジショニングロープ、赤が移動用ロープ）

使用するハーネスは、シットハーネスでもフルハーネスでもどちらでも可能です。ただし、高所作業車を使用して作業を行う際は、フルハーネス型墜落制止用器具を使用しなければなりません。

◆発行物

マニュアルでは、作業方法のほか、装着方法、点検や保守整備についても解説しています。

マニュアルと関連資料・動画は、すべて無料で日造協のホームページから閲覧、ダウンロードできます。

<https://www.jalc.or.jp/safety>



①「造園工事の樹上安全作業マニュアル（ダイジェスト版）」

➡ 樹上の作業環境に応じた安全な作業方法選択の提案、造園ワークポジショニングや高所作業車使用時の作業上の具体的な留意点の解説書

②「ポケット版：造園ワークポジショニング編」

➡ ダイジェスト版の造園ワークポジショニング編の主要内容を現場確認用の解説概要

③「ポケット版：高所作業車編」

➡ ダイジェスト版の高所作業車編の主要内容を現場確認用にコンパクトにした解説概要

④「造園工事の樹上安全作業マニュアル（動画版）」

➡ 実際の樹上での作業状況や、使用する装備・機材の使用方法などを動画等で解説
ダイジェスト版やポケット版に掲載のQRコードで、各作業の動画が視聴可能

◆最後に

2025年7月に厚生労働省の担当部署へ本マニュアルについて説明し意見交換を行ったところ、「上部に堅固な取り付け箇所がない樹上作業は、墜落制止用器具を使用することが著しく困難なケースに当てはまる」との見解や国としても対応の必要性を示して頂いたうえで、樹上作業のリスクについて共有しました。

今回の“造園ワークポジショニング作業”が、街路樹や公園、庭園等の剪定作業における安全対策の確立と労働災害の防止にも寄与できるものであることを確信しておりますので、今後も引き続き、全国でマニュアルの理解を深め、発注者等への周知・普及に努めて参ります。